



スピリットベアにふれた島

マイケルセン作 原田勝訳 鈴木出版

同級生に後遺症が残るほどの重傷を負わせた十五歳の少年コールは、アラスカ州南東部の無人島で、一年間過ごすことになった。それは、加害者・被害者双方の救済をめざす制度「サークル・ジャスティス」が与えたチャンスだったが、島から逃げようとして失敗する。クマに襲われた瀕死の状態で、皮肉にも命を実感し、「生きたい」と切望するコール。暴力でしか自分を表現できなかった少年が、島の自然の中で自分と向きあい、他者を理解しながら関係を修復していく、再生の物語。

